

日本近現代史

近現代史 採点基準表 100点 (50×2=100点)

〔Ⅰ〕日清戦争の経緯及び日清戦争と国際法の関係について、下記の用語や人名を全て用いて説明しなさい (50点)。

【甲午農民戦争、天津条約、平壤の戦い、黄海海戦、伊藤博文、陸奥宗光、李鴻章、下関条約、三国干渉、遼東半島、台湾、有賀長雄、国際法、「仁愛主義」、日本赤十字社、「文明国」】

①日清戦争の開戦過程と日清講和条約の説明ができていますか。

甲午農民戦争により、清国は天津条約に従って出兵を日本に通知したが、日本は朝鮮の内政改革を主張して清国に宣戦布告したこと、日清戦争の勝利により下関条約が締結されるが、三国干渉により日本が遼東半島を返還する一方、講和条約で得た台湾統治に注力したことが説明できているか。

②国際法の説明と日清戦争における日本赤十字社の役割が説明できているか。

戦時国際法に基づき、日本では国際法に沿った行動を取る必要があると考え、文明戦争の重要な要素として「仁愛主義」を捉えたこと、万国赤十字社の行動の基礎「博愛」と「仁愛主義」が同じであり、日本赤十字社が円滑に運用されることが「文明国」の条件と考えられていたことが説明できているか。

〔Ⅱ〕日露戦争の経緯と戦争が地域社会に与えた影響について、下記の用語や人名を全て用いて説明しなさい (50点)。

【義和団事変、桂太郎、小村寿太郎、日英同盟、「満韓交換論」、奉天会戦、日本海海戦、ポーツマス条約、賠償金、樺太、「文明戦争」、「博愛主義」、俘虜(捕虜)収容所、松山、豊橋】

①日露戦争の開戦過程と国内における路線対立、ポーツマス条約の説明ができていますか。

義和団事変後、ロシア軍が満州に駐留したため、桂首相・小村寿太郎外相は日英同盟を主張する一方、伊藤博文・井上馨らの「満韓交換論」と対立したこと、日露戦争の勝利によりポーツマス条約が締結され、日本による韓国支配権の確立、南樺太の割譲、遼東半島の旅順・大連の租借権の獲得、長春―旅順間の鉄道と沿海州の漁業権を得たが、賠償金は得られなかったことが説明できているか。

②戦争が地域社会に与えた影響について、俘虜(捕虜)収容所を中心に説明ができていますか。

日露戦争では、ロシア軍の捕虜も多く出たため、松山や豊橋など全国29ヶ所の捕虜収容所が設置されたこと、国際法や「文明戦争」の名の下、「博愛主義」に基づいて捕虜や負傷兵が厚遇されたことが説明できているか。